

## 春の陽光の中で

### 1. ホバリングの名手

ぽかぽか陽気の中、日なたでハチドリのような飛び方をする体長1cm前後の昆虫に出会います。日が陰るとどことなく姿を消します。3月から5月ごろまで見られるビロードツリアブです。

「ビロード」の名前のおりやわらかかそうな毛に包まれています。空中の一点で静止するホバリングと呼ぶ飛び方が吊るされているように見えることで、「ツリアブ」と呼ばれています。



ナガハシスミレ

ホバリングをしながら細長い口吻を花にいれて、花の奥にある蜜をすっていきます。ちょうどこの時期は早春から咲き始めるナガハシスミレ(テングスミレ)のような奥に蜜がある植物があるため、これに対応していると思われます。花から花へ水平あるいは垂直に、直線的に移動しながらの吸蜜行動は見えて飽きません。春らしさを感じる昆虫です。



ビロードツリアブ

ホバリング:空中の一点で停止する飛行のしかた。胸部の外骨格を変形させることで生じる翅の高速の振動と軽い体重が可能にしています。ヒラタアブ類もよく行います。

### 2. ヤマコウバシ

早い植物は新芽を伸ばそうかという時期になっても、落葉せず枝に枯れ葉を付けたままの木がヤマコウバシです。落ちないことから受験のお守りとして販売しているところもあります。常緑樹の緑の中に写真のような枯れ木状態で存在し、非常に目立ちます。クスノキ科でクロモジに近い植物なので、枝を折ったり葉を潰すと芳香がします。



落葉しない枯れ葉

これが名前の由来です。夏にはどこにあるのか存在感のない低木ですが、乾燥後葉を粉にして、餅に入れるところもあるそうです。



早春のヤマコウバシ

5月に新芽が出ると、芽の鱗片が落ちるように枯れ葉も落ちていきます。このような落葉樹でありながら、枯れ葉が枝から離れないのは、葉柄(ようへい)の根元に離層ができないからです。コナラなども離層の形成が不十分で、遅くまで枝に枯れ葉が残っています。暖地の種が寒冷地に適応していく進化の途中にあると考えられます。

離層:日照時間や温度が引き金となることができる、葉柄の根元の細胞壁が離れやすくなった部分で、コルク質で覆われるため樹液が葉にいかなくなります。